

日本再共済連

国内で唯一、再共済事業専門団体

日本再共済連は、国内で唯一、再共済事業を専門に行っており、いわゆる「共済の共済」を提供している。ここ数年間は大きな自然災害が少ないこともあり、契約・収入ともに安定している。2007、08、09年度の契約実数は2602万4000件、2593万1000件、2565万7000件。同じく、受入再共済掛金は151億6000万円、150億3000万円、153億9000万円。支払再共済金は57億6000万円、50億円、49億5000万円。契約件数は、自然災害共済再共済や生命共済再共済が増加した反面、そのほかの再共済契約が減少した結果、わずかに減少。契約口数は、会員団体の自然災害共済の加入が好調なことから微増している。また同連合会は、社会貢献活動や研究活動などに注力している点も特徴だ。角田修作理事長に取り組み状況などについて聞いた。



角田 現在の再共済事業専門団体に至るまでに組織改編を4回行った。今から約35年前、5つの単産共済が自動車共済事業

角田修作 理事長に聞く

「生命」などの再共済を
提供している。現在の会
員数は59会員。内訳は、
地域生協47、職域生協
8、生協連合会2、市民
生協1、事業協同組合が
1となっている。

角田 現在の再共済事業専門団体に至るまでに組織改編を4回行った。今から約35年前、5つの単産共済が自動車共済事業

社会貢献や研究活動などにも注力

角田 現在実施している再共済は①総合(慶弔)共済再共済②火災共済再共済③自然災害共済再共済④交通災害共済再共済⑤生命共済再共済⑥自動車共済再共済⑦自賠責共済再共済⑧の7種類。

角田 大きな活動としては三つ。一つは、再共済事業開始10周年の記念事業として1997年から2004年まで取り組んだ「盲導犬育成事業への支援」。二つ目は、自動車共済と自賠責共済を中心とした事業を行っていた当時、1999年6月に「交通安全推進宣言」を採択し安全な社会を目指す、各種の交通安全推進運動に取り組んだ。三つ目は、再共済事業開始20周年を記念して開始した「自然環境の再生活動」。2007年5月から「富士山の森づくり」を実施しており、資金援助と、会員の役員と共

角田 現在、11年度から5年間の中期経営政策を策定中だ。これには、日本再共済連が共済協同組合のセーフティーネット機能の役割を一層発揮するとともに、再共済事業を通じた共済協同組合の結集により連携・協力の促進を進め、共済協同組合に対する社会的信頼の向上に寄与していくという思いを込めている。

角田 今後、経済の低迷、雇用情勢の悪化、少子高齢化の加速などによる契

角田 近年、共済事業を取り巻く環境は劇的な変化を遂げていることから、直近の周辺課題をテーマに「共済課題研究会」を開催している。昨年11月には「日本における自然災害のリスクとマネジメント」をテーマに実施し、22の共済団体が参加した。この研究会は、1990年に「再共済・再保険ならびに自動車共済について、国内外の制度・理論を研究する場」として「再共済研究会」の名称で始まり、その後毎年開催してきた。再共済事業開始20周年を記念して、2007年に「共済課題研究会」と名

角田 特に関心しているのは、活動の特徴は。角田 特に関心しているのは、活動の特徴は。角田 特に関心しているのは、活動の特徴は。

角田 研究活動の内容は。角田 近年、共済事業を取り巻く環境は劇的な変化を遂げていることから、直近の周辺課題をテーマに「共済課題研究会」を開催している。昨年11月には「日本における自然災害のリスクとマネジメント」をテーマに実施し、22の共済団体が参加した。この研究会は、1990年に「再共済・再保険ならびに自動車共済について、国内外の制度・理論を研究する場」として「再共済研究会」の名称で始まり、その後毎年開催してきた。再共済事業開始20周年を記念して、2007年に「共済課題研究会」と名

角田 研究活動の内容は。角田 近年、共済事業を取り巻く環境は劇的な変化を遂げていることから、直近の周辺課題をテーマに「共済課題研究会」を開催している。昨年11月には「日本における自然災害のリスクとマネジメント」をテーマに実施し、22の共済団体が参加した。この研究会は、1990年に「再共済・再保険ならびに自動車共済について、国内外の制度・理論を研究する場」として「再共済研究会」の名称で始まり、その後毎年開催してきた。再共済事業開始20周年を記念して、2007年に「共済課題研究会」と名

角田 大きな活動としては三つ。一つは、再共済事業開始10周年の記念事業として1997年から2004年まで取り組んだ「盲導犬育成事業への支援」。二つ目は、自動車共済と自賠責共済を中心とした事業を行っていた当時、1999年6月に「交通安全推進宣言」を採択し安全な社会を目指す、各種の交通安全推進運動に取り組んだ。三つ目は、再共済事業開始20周年を記念して開始した「自然環境の再生活動」。2007年5月から「富士山の森づくり」を実施しており、資金援助と、会員の役員と共

角田 現在、11年度から5年間の中期経営政策を策定中だ。これには、日本再共済連が共済協同組合のセーフティーネット機能の役割を一層発揮するとともに、再共済事業を通じた共済協同組合の結集により連携・協力の促進を進め、共済協同組合に対する社会的信頼の向上に寄与していくという思いを込めている。

角田 今後、経済の低迷、雇用情勢の悪化、少子高齢化の加速などによる契

角田修作(つのだ・しゅうさく)氏の略歴
1949年6月27日生まれ。2005年6月日本鉄道労働組合連合会(JR連合)会長に就任、09年6月全国交運共済生協理事長に就任(現職)、09年8月日本再共済連理事長に就任(現職)。